（様式１－１）

① 申請者	岡山県高梁市	② タイプ	地域型 ／ シリアル型 A　B　C　D　E

③ タイトル

（ふりがな）	はっしょう　ち　ーべんがら　あかがね　まち　びっちゅうふきやー

「ジャパンレッド」発祥の地　　ー弁柄と銅の町・備中吹屋ー

④ ストーリーの概要（２００字程度）

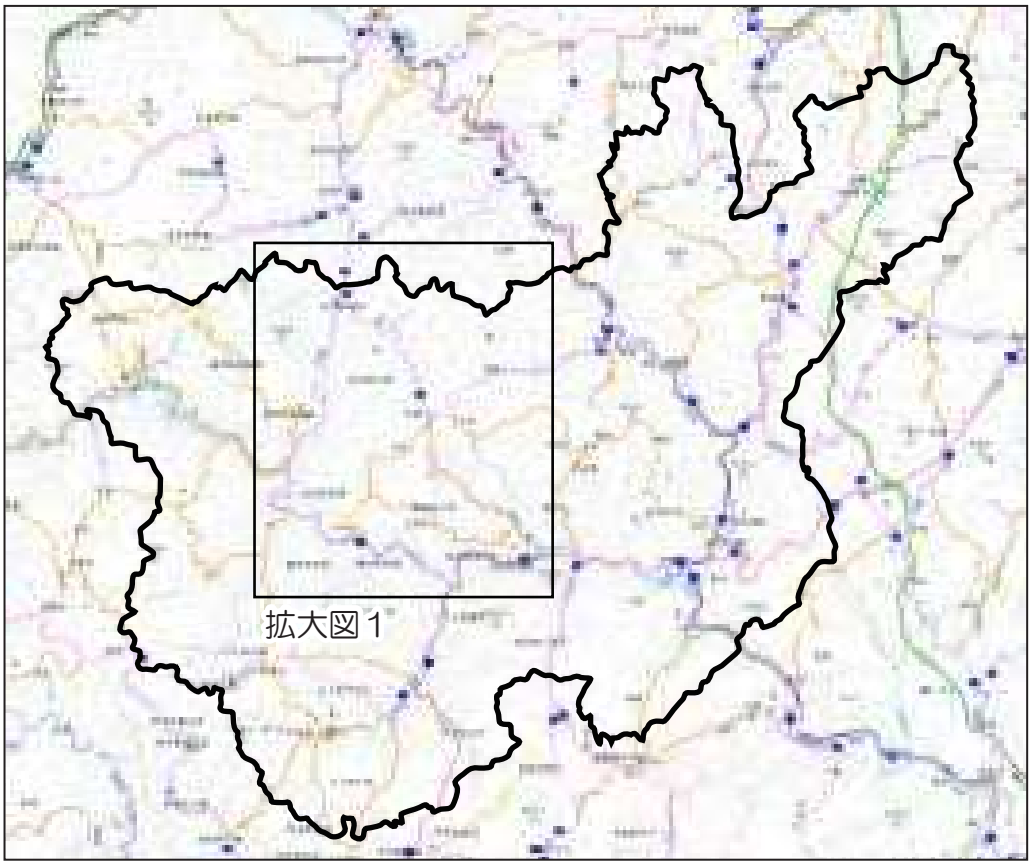
標高約 500m の高原上に忽然と出現する「赤い町並み」。かつて国内屈指の弁柄と 銅 生産で繁栄した鉱山町・吹屋である。吹屋で生産された赤色顔料の弁柄は全国に流通し、社寺などの建築や九谷焼・伊万里焼や輪島塗等、日本を代表する工芸品を鮮やかに彩り、日本のイメージカラーである「ジャパンレッド」を創出した。富を得た商人たちは赤い瓦と弁柄で彩色された格子で家々を飾り、今も残る町並みは、独特の景観を醸し出し、訪れる多くの人々を魅了している。また周辺には、弁柄工場跡や銅山跡等も残り、「ジャパンレッド」を創出した往時の繁栄を偲ばせている。

赤く彩られた吹屋の町並み

赤色顔料　弁柄

市町村の位置図（地図等）

鳥取県
N
新庄村
鏡野町
津山市
西粟倉村
奈義町
真庭市
勝央町
美作市
新見市
美咲町
兵庫県
久米南町
吉備中央町
和気町
高梁市
赤磐市
備前市
広島県
総社市
岡山市
瀬戸内市
井原市
矢掛町
早島町
浅口市
笠岡市
倉敷市
里庄町
玉野市
岡山県

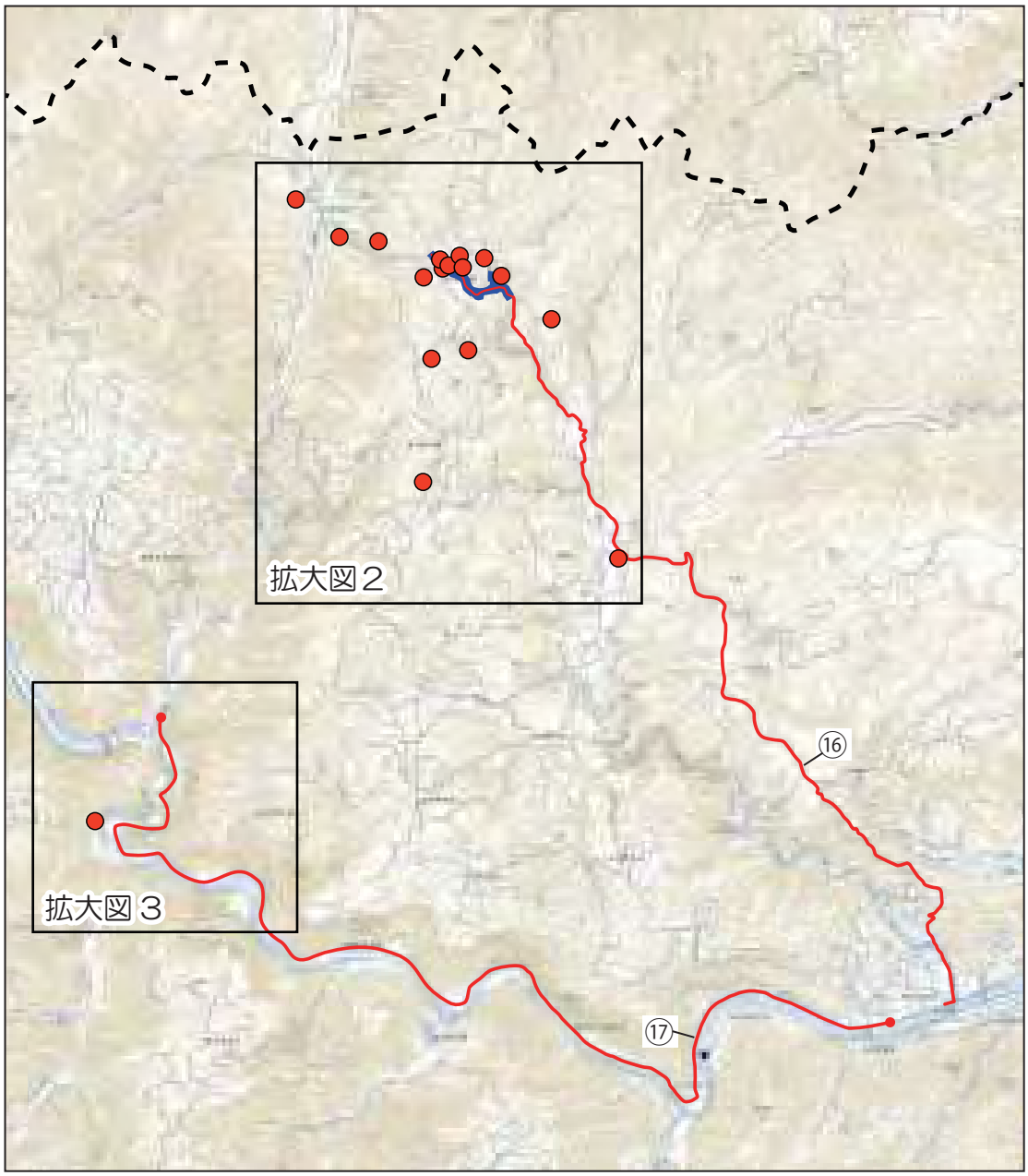

拡大図１

構成文化財の位置図（地図等）

※全域にわたる構成文化財

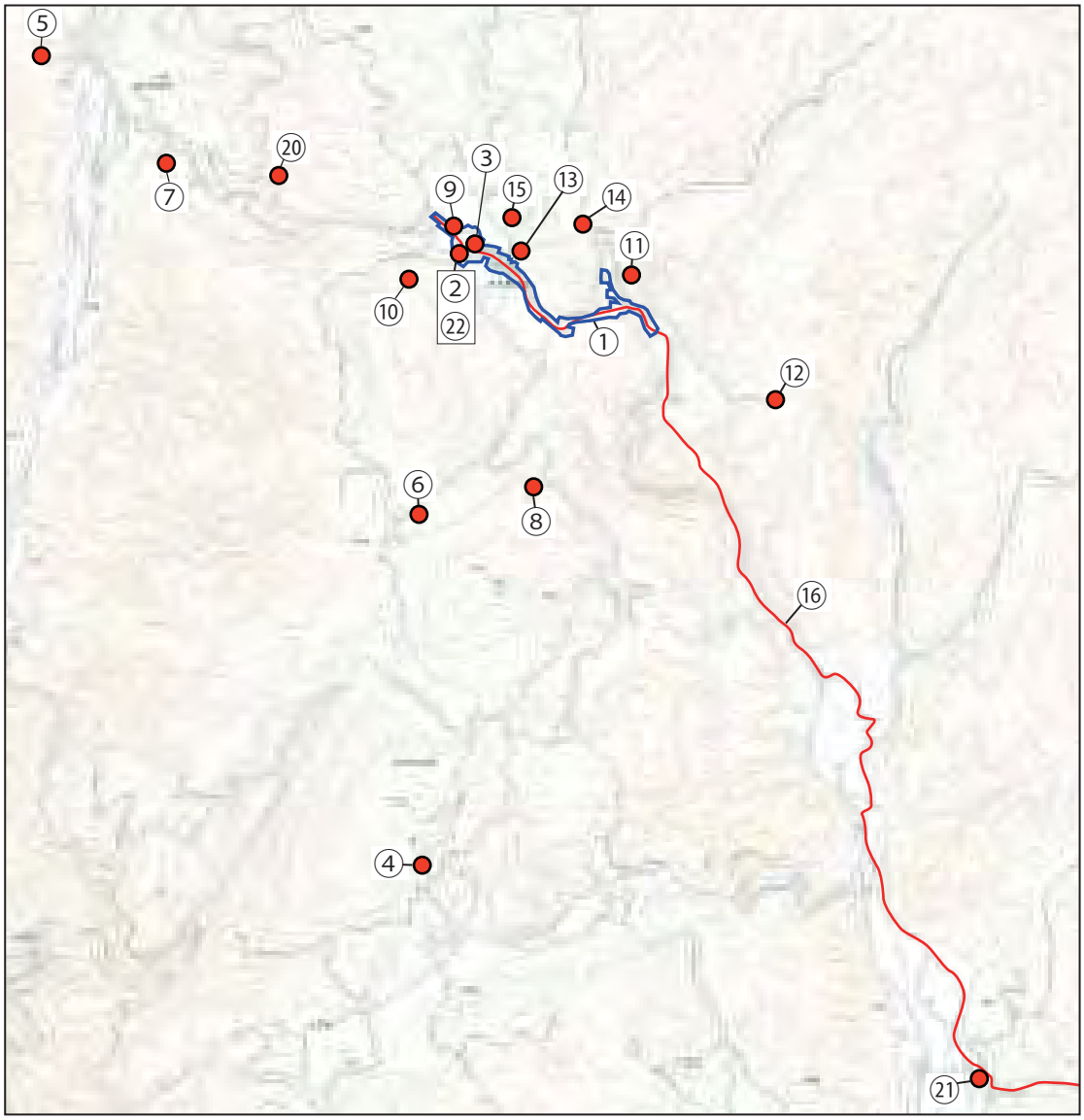
⑲	備中神楽

拡大図１



⑯	旧吹屋往来	⑰	トロッコ道跡

拡大図２



①	高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区			②	旧片山家住宅
③	吹屋郷土館	④	旧広兼家住宅	⑤	西江家住宅主屋ほか
⑥	ベンガラ館	⑦	吉岡銅山跡	⑧	笹畝坑道
⑨	山神社跡	⑩	山神社	⑪	黄金山城跡
⑫	延命寺	⑬	銅栄寺	⑭	鉱夫長屋跡
⑮	旧吹屋小学校校舎	⑯	旧吹屋往来	⑳	腰折地蔵尊
㉑	石州瓦製作道具	㉒	片山家文書		

拡大図３

⑰	トロッコ道跡	⑱	井川発電所跡

ストーリー

赤い町並みの景観と魅力

峡谷沿いの道から山へ分け入り、人家も稀な急峻な山道を進むと、突如として眼前に現れる「赤い町並み」に驚く。赤褐色の瓦で葺かれた屋根、弁柄塗りの格子で鮮やかに統一された立派な町家が道の両脇に並ぶ。岡山県中西部の吉備高原上に位置する吹屋の町並みである。

当地は、かつて弁柄と銅の生産地として繁栄した鉱山町で、備後東城（現在の広島県庄原市）と備中成羽（現在の岡山県高梁市成羽町）を結ぶ旧吹屋往来の中継地点にも位置し、各種物資の集散地として大いに賑わい、往来沿いには弁柄問屋や宿屋、銅山労働者を対象とした各種の小売商を営んだ家々が軒を連ねた。その財力を背景として、各商家等は石見（現在の島根県西部）から宮大工や瓦職人を招請し、競うように優れた意匠の町家を建築した。そうした地域の人々の活発な営みの中で形成されたのが、他に例を見ない「赤い町並み」の景観である。

赤く彩られた吹屋の町並み

ジャパンレッドを創出した吹屋弁柄

海外の人々による日本のイメージカラーは、圧倒的に「赤」といわれ、その赤は古来より生命の源、神聖なるものを象徴する色彩とされた。赤色が映える九谷焼・伊万里焼の陶磁器や輪島塗・山中塗の漆器等、我が国が誇る多くの伝統工芸品に用いられたのは、備中吹屋産の赤色顔料「弁柄」であった。これら優れた工芸品は、遠く欧米の地でも高く評価され、日本的色調の赤である「ジャパンレッド」として認識された。

整備された旧弁柄工場（ベンガラ館）

九谷焼浄水鉢

弁柄は、銅山から銅鉱石とともに産出された硫化鉄鉱石を原料とする。硫化鉄鉱石から取り出した緑礬（硫酸鉄の結晶）を釜で焼成し、水槽に入れて不純物を取り除き、細かく粉成、脱酸し、天日乾燥を経て赤い粉末状の弁柄となる。吹屋では、江戸時代中期から弁柄の製造に着手、陶磁器・漆器等の顔料や建築・船舶の防腐塗料として重用され、全国市場を独占した。明治１０年（１８７７）に開催された「第１回内国勧業博覧会」では、「吹屋弁柄」は一等褒状を授与され、その良質さと名声は全国に広まった。特に、陶磁器の赤絵や漆器の朱漆には、「吹屋弁柄」は欠くことのできないものとされ、まさに吹屋は「ジャパンレッド」創出の地といえる。

国内屈指の銅（あかがね）の生産地

「吹屋よいとこ　金掘るところ　掘れば掘るほど　金がでる」、吹屋に伝わる俗謡にもあるように、国内有数の銅（銅は、その色合いから「あかがね」とも呼称された）の生産地でもあった。伝承によると、当地の吉岡銅山は、大同２年（８０７）の開坑、戦国時代には有力大名による争奪戦が展開されたが、江戸時代中期には、大坂の泉屋（後の住友家）が経営に参画し、国内屈指の産銅量を誇った。その後、明治時代初期には岩崎弥太郎（三菱商会）が買収し、巨大な資本力と外国の先進技術の導入により、近代的経営を展開、後の鉱山経営の規範となったとされる。

昭和４７年（１９７２）に閉山となったが、現在、鉱山跡地には坑道・選鉱場・製錬所・沈殿槽・トロッコ用トンネル等の遺構がみられ、往時を偲ぶことができる。このように、吉岡銅山は、住友・三菱という我が国を代表する財閥が経営に関与した銅山であり、貴重な産業遺跡として評価（近代化産業遺産：平成１９年経済産業省）されている。

公開されている笹畝坑道

吹屋弁柄と銅山の隆盛を体感できる空間

吹屋の下谷から下町・中町・千枚地区に至る約 1.5km の「高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区」（国選定）を散策すると、弁柄の製造に携わった「旧片山家住宅」（国重要文化財）等で構成される赤褐色の瓦と弁柄塗りの格子で鮮やかに彩られた異空間を体感できる。また、町並みの周辺には、弁柄の製造工程を概観できる「ベンガラ館」や弁柄関連で財をなし豪壮な屋敷構えを誇る「旧広兼家住宅」（市重要文化財）・「西江家住宅主屋等」（国登録）、さらに削岩機の跡も生々しい「笹畝坑道」、三菱の鉱山本部跡地に建築された明治のレトロ感溢れる「旧吹屋小学校校舎」（県重要文化財）があり、それらを周遊すると、「ジャパンレッド」を創出した往時にタイムスリップしたような錯覚をおぼえる。

緑礬製造に携わった旧広兼家住宅

吹屋ベンガラ灯り

近年、「赤い町並み」を舞台に、幻想的な夜の町並みを映し出す「吹屋ベンガラ灯り」、ベンガラ染めの衣装を纏った踊り連が優雅に舞う「吹屋小唄踊り」、地域の魅力をアートで表現する「吹屋ベンガラート展」や、自転車で疾走する「ヒルクライム大会」等を実施、豊かな自然と歴史・文化が融合した「ジャパンレッド」発祥の地の魅力を広く発信する取り組みを展開し、多くの来訪者で賑わっている。

（様式３－１）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 （※１）	指定等の状況 （※２）	ストーリーの中の位置づけ （※３）	文化財の所在地（※４）
①	たかはしし ふきやでんとうてき 高梁市吹屋伝統的 けんぞうぶつぐんほぞんちく 建造物群保存地区	国重伝建	旧吹屋往来沿いには、弁柄問屋や各種の小売商を営んだ家々が軒を連ね、赤褐色の瓦・土壁・海鼠壁・弁柄塗りの格子で統一された優れた意匠の町家が良好に残っている。	
②	きゅうかたやまけじゅうたく 旧片山家住宅	国重文 （建造物）	片山家は、江戸時代後期から弁柄の製造・販売を手掛け、当地を代表する商家としての地位を確立し、庄屋を務めた。旧吹屋往来に面して、主屋及び土蔵等の附属建物が良好に保存され、江戸時代後期から明治期にかけての商家建築として高い価値を有している。土蔵には、弁柄に関する資料が展示されている。	
③	ふきやきょうどかん 吹屋郷土館	未指定 有形文化財 （建造物）	弁柄製造で繁栄した片山家の分家。明治１２年（1879）に石見（現在の島根県西部）の大工により建てられた商家建築で、昭和５１年(1976)から吹屋の歴史と暮らしを紹介する民具等を展示・公開している。	
④	きゅうひろかねけじゅうたく 旧広兼家住宅	市重文 （建造物）	広兼家は、江戸時代後期に小泉銅山（現高梁市成羽町小泉）経営と弁柄関連製造で蓄財した。二階建ての大型主屋や土蔵・長屋等は、文化７年（1810）の建築で、楼門を持つ豪壮な石垣は城郭を思わせる屋敷構えとなっている。	
⑤	にしえけじゅうたくしゅおくほか 西江家住宅主屋ほか	国登録有形 （建造物）	西江家は、江戸時代中期頃から弁柄製造に携わり蓄財した。赤褐色の瓦で葺かれた大型主屋や土蔵群を含む屋敷構えが良好に残り、壮観な景観を呈している。 土蔵を改修した展示施設では、弁柄関係の各種資料が公開されている。	

⑥	ベンガラ館	未指定 （史跡）	この施設は、明治期の弁柄工場を昭和６１年(1986)に復元整備したもので、水車を動力源とする当時の弁柄製造工程が概観できる唯一の施設である。	
⑦	吉岡銅山跡	未指定 （史跡）	吉岡銅山は、大同２年（807）の開坑とされ、江戸時代前期には泉屋吉左衛門（後の住友の祖）が経営を請け負い、西日本有数の銅山として繁栄した。明治６年（1873）には岩崎弥太郎（三菱商会）が買収し、巨大な資本力と近代西洋技術の導入により、国内屈指の銅山となった。吉岡銅山は、三菱が手掛けた最初の金属鉱山であり、後の全国各地の鉱山開発の規範となった。昭和４７年(1972)に閉山となったが、現在、銅山跡地には坑道、選鉱及び製錬所、沈殿槽、大煙突への半地下式煙道等の遺構がみられ、往時の景観の名残をとどめる貴重な産業遺跡である。	
⑧	笹畝坑道	未指定 （史跡）	吉岡銅山の旧坑道の一つ。坑道口から約２５０ｍを整備し公開している。削岩機の跡やトロッコ軌道が残り、近代における銅採掘の実態が体感できる空間となっている。	
⑨	山神社跡	未指定 （史跡）	山神社は、享保年間（1716～35）に地元の銅山経営者大塚家が勧請した銅山の守護神金山彦命等を祀る。現在、御神体は同所の高草八幡神社へ遷され、旧本殿の建物だけが残る。当社の鳥居・玉垣には、三菱のマークが刻印されている。	
⑩	山神社	未指定 （建造物）	吉岡銅山に隣接した北方銅山（高梁市成羽町吹屋北方地区）で祀られていた銅山の守護神。閉山後、現在の高草八幡神社の境内に移設された。	
⑪	黄金山城跡	未指定 （史跡）	戦国時代に吉岡銅山を支配下に置いた尼子氏が築城した山城跡。武将吉田兼久が在城し、銅山の支配にあたった。	
⑫	延命寺	未指定 （史跡）	永正２年(1505)の創建とされ、吉岡銅山を支配した戦国大名尼子氏ゆかりの寺。	

⑬	銅栄寺（どうえいじ）	未指定 （史跡）	江戸時代の創建と伝えられ、かつては「観音堂」と呼ばれた。明治２８年(1896)に当時の鉱山長が銅山盛業を祈願したことから「銅栄寺」と称された。	
⑭	鉱夫長屋跡（こうふながやあと）	未指定 （史跡）	吹屋白石地区にある江戸時代中期以降の銅山に従事した鉱夫の長屋跡。製錬場へ続く坂道の両側には、数段にわたる石積が残る。	
⑮	旧吹屋小学校校舎（きゅうふきやしょうがっこうこうしゃ）	県重文 （建造物）	旧吹屋小学校校舎は、銅山と弁柄製造が隆盛していた明治３３年(1900)に東西校舎、同４２年(1909)に本館が竣工した。各建物の天井裏に造作されたトラス構造等、明治期の擬洋風建築独特の特徴がみられる。「現役最古の木造校舎」として話題となったが、平成２４年３月末に閉校となった。敷地は、銅山役所跡（江戸期）、本部事務所跡（明治期）にあたる。	
⑯	旧吹屋往来（きゅうふきやおうらい）	未指定 （史跡）	成羽から吹屋を経由して備後東城に至る旧道。記録によると、吹屋から牛馬の背で、当地産の銅・弁柄や鉄が成羽河岸を経由して、高瀬舟で玉島港（現倉敷市玉島）へ輸送され、全国市場へ出荷された。	
⑰	トロッコ道跡（みちあと）	未指定 （史跡）	吉岡銅山と成羽を結ぶ約２０ｋｍのトロッコ軌道の跡。明治後期から大正初期に、成羽川左岸に整備、銅の搬出や製錬に必要なコークス・木炭が運搬された。従前の馬車輸送と比較して、その輸送力は飛躍的に向上した。	
⑱	井川発電所跡（いかわはつでんしょあと）	未指定 （史跡）	三菱が吉岡銅山の設備等の近代化を図る中で、大正３年(1914)に建設された発電所跡。これにより、鉱山内の採鉱・選鉱・製錬に使用する動力源を供給した。	
⑲	備中神楽（びっちゅうかぐら）	国無形民俗	備中地方一円に伝承されている神楽。江戸時代後期に、記紀を題材とした演劇性の高い神代神楽「天の岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」が創作され、地域色豊かな民俗芸能として定着。鉱山労働者等に数少ない娯楽の機会を提供した。	

⑳	腰折地蔵尊（こしおれじぞうそん）	未指定 （無形民俗）	吹屋千枚地区にある石仏地蔵。狭い坑道内でのかがみ姿勢の過酷な労働に従事した銅山労働者によって祀られたと伝承される。銅山の衰退とともに堂宇は損傷したが、近年整備され、足腰の病気を患う人々の信仰の対象となっている。	
㉑	石州瓦製作道具（せきしゅうがわらせいさくどうぐ）	未指定 （有形民俗）	吹屋の町並みに葺かれた瓦は、江戸時代後期から明治時代にかけて、石見国江津村（現島根県江津市）から塩田村（現高梁市宇治町塩田）に来住した瓦職人によって焼成された。石州瓦に適した良質の土と燃料を確保し、主に塩田村に窯が築かれたことから、地元では「塩田瓦」と呼ばれた。現在、瓦製作道具一式が収集されている。	
㉒	片山家文書（かたやまけもんじょ）	未指定 （古文書）	弁柄の製造・販売を手掛けた旧片山家に残された古文書群。江戸時代中期から明治中期頃までの弁柄の製造・販売に関する実態を解明する上で、貴重な資料である。	

（※１）文化財の名称には振り仮名を付けること。

（※２）指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等）。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

（※３）各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

（※４）ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

（別紙様式３－２）

構成文化財の写真一覧

① 高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区

② 旧片山家住宅

③ 吹屋郷土館

④ 旧広兼家住宅

⑤ 西江家住宅主屋ほか

⑥ ベンガラ館

（別紙様式３－２）

構成文化財の写真一覧

⑦　吉岡鉱山跡（沈殿槽跡）

⑧　笹畝坑道

⑨　山神社跡

⑩　山神社

⑪　黄金山城跡

⑫　延命寺

（別紙様式３－２）

構成文化財の写真一覧

⑬　銅栄寺

⑭　鉱夫長屋跡

⑮　旧吹屋小学校校舎

⑯　旧吹屋往来

⑰　トロッコ道跡

⑱　井川発電所跡

（別紙様式３－２）

構成文化財の写真一覧

⑲　備中神楽

⑳　腰折地蔵尊

㉑　石州瓦製作道具

㉒　片山家文書

（様式４）

日本遺産を通じた地域活性化計画

（１）将来像（ビジョン）

高梁市は、弁柄（ベンガラ）と銅山で繁栄した日本の伝統色″弁柄色″の赤で統一された吹屋の町並み（重要伝統的建造物群保存地区）や現存12天守の一つである白壁の美しい備中松山城（国指定重要文化財）と城下町、そして、備中神楽、渡り拍子、松山踊りなど伝統的な民俗芸能が今に引き継がれ、歴史的文化遺産と民俗芸能が、地域の誇りとして市民に根づき、文化財の保存と伝統文化の継承に取り組むまちづくりを展開している。

さらには、平成22年10月に高梁市固有の風情や情緒を活かしたまちづくりを進めるため「高梁市歴史的風致維持向上計画」を策定し、地域住民が長い歴史の中で培ってきた歴史的資産の保存・活用を図り、歴史的文化を活かしたまちづくりを進めている。しかし、市域の大半が中山間地域である本市においては、人口減少と少子高齢化が著しく、空き家や空き地が目立ち、伝統芸能の伝承も困難になってきている。

こうした現状を打開すべく、日本遺産認定を契機に、市民の郷土への愛着と誇りをさらに醸成し、心豊かな人を育むまちづくりを一層効果的に推進するとともに、地元住民の協力を得ながら受入れ体制を整備し、シティプロモーションの体制を充実させ、国内外へ効果的な情報発信を行うことで、地域の魅力を売り込み、インバウンドを含む交流人口増加により経済効果を高めていく。さらには、令和２年度に策定する次期高梁市総合計画において、日本遺産による地域のイメージブランドを活かした地域の「稼ぐ力」、「地域価値の向上」や地域内の「循環力」を計画に位置づけ、地域住民や移住者が様々な分野にチャレンジできる仕組みの構築や、地消地産による消費の高循環による波及効果を生み出すことで、地域活性化を進めていく。

（２）地域活性化のための取組の概要

①国内外の観光客受入環境の整備
・日本遺産のストーリーや文化財を紹介するワンランク上の観光ガイド等のおもてなし人材を育成するとともに、観光客が周遊しやすい環境を整備する。
・多言語に対応した観光ガイドアプリを導入し、案内看板と連動した文化財等解説するなど観光客の回遊性を高め、滞在時間の延長を促進することで、消費の拡大と環境の充実を図る。
・観光客がストレスなく、快適に観光を満喫できる環境整備を行っていくため、吹屋伝統的建造物群保存地区へのWi-Ｆi環境の整備や公衆トイレの洋式化を図る。
・地域の特産品を活かした商品開発や食べ歩きグルメの開発、また、起業する飲食店や土産店への支援による賑わいの創出を行い、地域経済の活性化を図る。
②吹屋の弁柄と銅に関する歴史と吹屋で生まれた暮らしや生活についての調査研究
・日本遺産の情報発信、普及事業、ガイダンス施設に必要な弁柄と銅に関する資料の収集を行い、弁柄と銅の歴史、流通経路や使用状況などについて、日本遺産ストーリーの理解をさらに深めるため、歴史的資料に基づき調査研究を行っていく。
・吹屋銅山の起源となった吉岡銅山遺跡の調査研究を進め、産業遺産としての価値を維持し、吹屋の歴史を語る新たな地域資源として、地域の活性化を図る。
・ジャパンレッドの町並みがどのようにでき、弁柄が庶民の生活にどのように関わり使用されてきたか、また、地域固有の民俗芸能がどのように生まれ引き継がれてきたかなど、地域住民のくらしの資料収集や調査を行い、地域の魅力を再発見し引き出していく。
③市民等への日本遺産、弁柄と銅の歴史文化の普及・啓発
・日本遺産の認定を記念して講演会やシンポジウムなどを開催し、認定を受けたストーリー”「ジャパンレッド」発祥の地－弁柄と銅の町・備中吹屋－”の魅力を市民等に発信し、市民の郷土への愛着と誇りを醸成し、普及啓発を図る。
④「高梁市日本遺産センター（仮称）」の整備
・旧吹屋小学校校舎（岡山県重要文化財）を活用し、吹屋の弁柄と銅の歴史の映像やパネルの展示などで解説するガイダンス機能を整備するとともに、観光客の憩い場としての活用やミュージアムショップなどの要素を取り入れた観光拠点施設として整備を行う。
⑤消費拡大のためのナイトタイムエコノミーの取組
・観光客の滞在時間を延ばす取組として、弁柄製造全盛期の夜の過ごし方体験や備中神楽の鑑賞会など夜間の経済効果を高めるイベントなどを定期開催し、観光客の滞在中の満足度の向上させる取組をおこなっていく。
・吹屋地域は星空が美しく、天文台も設置されており、星空観察ツアー等を実施し、夜のアクティビティの充実による宿泊者の増加や地域経済の活性を図る。
⑥グリーンスローモビリティ実証及び導入
・観光地としての魅力向上と環境に配慮した交通手段への転換から「グリーンスローモビリティ」を導入し、吹屋の町並みを中心とした弁柄と銅に関連する施設を周遊することで、吹屋の歴史について、より深く関心を持たせる。
・導入に向けては、航続可能距離等の確認のため実証実験を行う必要があり、費用面やその効果を図りながら日本遺産の普及推進を図っていく。
⑦シティプロモーション活動の推進
・SNSやＹouＴube動画など多様な媒体を活用して、戦略的に国内外に広く発信することで、高梁市の文化財や伝統文化の価値と魅力を深めるとともに、知名度や集客力の向上を図る。
・ジャパンレッドをイメージさせるＰＲロゴやキャッチコピーを作成し、住民の地域への愛着と誇りを醸成し、吹屋地域のイメージアップにつなげていく。
⑧近隣日本遺産と連携した観光と産業の振興
・高梁市は、岡山県南部を中心とした日本遺産群と鳥取県、島根県の日本遺産群をＪＲで結ぶ中間地点にあり、日本遺産認定都市と連携して広域の周遊ルートの創出と旅行商品の開発を行い、周辺地域の観光と産業の振興を図る。
⑨空き古民家等を活用した事業での地域活性化
・吹屋地域の伝統的な古民家を所有者から高梁市が寄附を受け、滞在型宿泊施設として整備し、平成30年9月から指定管理者が営業している。令和3年度には2棟目を改築する予定であり、吹屋地域の宿泊者の増加を図る。
・吹屋地域の伝統的な町並みの中に空き家が増加しているため、起業や移住を促進し、町並みの保存と消費拡大につなげていく。

（３）自立的・継続的な取組

・（仮称）高梁市日本遺産推進協議会で養成したガイドの活動を有料とし、継続した活動につなげる。
・日本遺産に関するお土産、特産品等の新商品開発を行うとともに、ネットショップの開設や「ふるさと納税」の返礼品に日本遺産に関係する特産品を加えるなど、高梁市の取組を広くＰＲするとともに、地域産業の振興につなげる。
・「高梁市日本遺産センター（仮称）」の展示施設は有料とし、入場料や施設内ショップ等での販売収入で施設の維持管理や継続した活動につなげる。
・日本遺産協力団体へ登録した団体に対し、地域資源の活用（空き家改修など）や特産品等の開発に伴う経費などの支援を行い、官民連携での新たな魅力の創出に取り組み、民間団体が自立して事業実施できるよう支援の検討を行う。
・日本遺産をＰＲする情報サイトで、情報提供する店舗などから広告料を得て運営する。

（４）実施体制

・協議会の名称：（仮称）高梁市日本遺産推進協議会
・構成団体：吹屋町並保存会、ふきや町並み店主会、㈱吹屋、成羽町観光協会吹屋支部、（一社）高梁市観光協会、高梁商工会議所、備北商工会、高梁市文化財保護審議会、高梁市景観審議会、たかはしフィルムコミッション、びほく農業協同組合、備北バス㈱、備北タクシー㈱、㈲ピオーネ交通、㈱吉備ケーブルテレビ、ＪＲ西日本、高梁市（歴史まちづくり室、産業観光課、成羽地域局、教育委員会）
・協議会の進め方：現在、高梁市と吹屋町並保存会、ふきや町並み店主会、成羽町観光協会吹屋支部において、吹屋地域の活性化に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、歴史的町並みの保存・活用などについて、平成31年1月からワークショップを行っており、このプロジェクトチームを核として経済団体や民間事業者等を加えた組織とし、事業を実施していく。また、学識経験者をコーディネート役として協議会に配置し、協議会の意見を調整しながら進めるとともに、「景観整備」、「産業観光振興」、「交通」、「情報発信」などの部会を設置し、地域と連携した取組を行う。また、将来的には観光地域づくりのかじ取り役を担うＤＭＯ法人の設立・移行を検討していく。

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果	定量的評価：	別紙①のとおり
期待される効果：	市民の地域の歴史文化への関心が高まり、郷土への愛着・誇りが深まることにより、文化財とその周辺環境とが一体となった歴史と伝統文化を適切に守り・活かす「ひと」を育成することができる。また、日本遺産を通じた取組により、地域ブランド力の強化が見込め、観光振興や地域産業の強化による地域経済の活性化、さらには移住・定住の促進にも期待できる。	

（６）日本遺産魅力発信推進事業	別紙②のとおり		
事業費：	令和２度： 12,200千円	令和３度： 49,700千円	令和４度： 20,700千円

（７）その他の事業	別紙③のとおり

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	市内にある主要観光地の観光客数
関連事業：	(6)①、②、③、④、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬ (7)②、③、④、⑥、⑧、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯
目標値：	令和　元　年度　450,000　人　⇒　令和　8　年度　520,000　人
設定根拠：	毎年１万人程度の伸びを見込んで目標値を設定
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	住民アンケートによる「地域の文化に誇りを感じる」住民の割合
関連事業：	(6)⑤、⑥ (7)①、⑤
目標値：	令和　2　年度　0　%　⇒　令和　8　年度　50　%
設定根拠：	市民の半数以上が、地域の文化に誇りを感じる状態を目標として設定
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産で開発された商品・サービス数
具体的な指標：	地元事業者による日本遺産関連で開発された商品・サービス数
関連事業：	(7)⑦、⑨
目標値：	令和　2　年度　0　件　⇒　令和　8　年度　18　件
設定根拠：	１年間で3件ずつの商品開発を進め、令和8年度で18件の目標値を設定
設定目標Ⅳ：	その他
計画評価指標：	その他
具体的な指標：	
関連事業：	
目標値：	令和　年度　⇒　令和　年度
設定根拠：	

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。
※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

様式４（別紙②）

（６）地域文化財総合活用推進事業（日本遺産）

事業①：	日本遺産構成文化財解説板・案内板設置事業				
事業区分：	情報コンテンツ作成	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 3 年度		
事業費：	令和２年度： 4,000千円	令和３年度： 2,000千円	令和４年度： 千円		
事業概要：	構成文化財の案内板・説明板を日本語及び英語等で製作・設置し、日本遺産ストーリーの理解促進及び国内外から来訪する観光客が周遊する点の利便性の向上を図る。				
具体的な指標：	施設への入込み数				
目標値：	令和 元 年度 450,000 人 ⇒ 令和 8 年度 520,000 人				
事業②：	公衆トイレ整備事業				
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度		
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 15,000千円	令和４年度： 千円		
事業概要：	インバウンド観光客の利便性を高めるため、吹屋地域にある公衆トイレ４箇所について、和式トイレを洋式化等に改修する。				
具体的な指標：	施設への入込み数				
目標値：	令和 元 年度 450,000 人 ⇒ 令和 8 年度 520,000 人				
事業③：	弁柄等関連文献調査事業				
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 3 年度		
事業費：	令和２年度： 3,000千円	令和３年度： 3,000千円	令和４年度： 千円		
事業概要：	弁柄と銅に関する資料や当時の暮らしに関する資料を収集し、ガイダンス施設の展示を充実させるなど、来訪者の日本遺産ストーリーへの理解を深めてもらう。				
具体的な指標：	日本遺産センターへの入館者数				
目標値：	令和 2 年度 0 人 ⇒ 令和 8 年度 20,000 人				
事業④：	日本遺産観光コンシェルジュの育成				
事業区分：	人材育成	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度		
事業費：	令和２年度： 700千円	令和３年度： 700千円	令和４年度： 700千円		
事業概要：	高梁市内で活動する観光ガイド団体を対象に、日本遺産のストーリーや構成文化財を説明・案内できる人材を育成するための研修会を開催する。また、研修修了者はワンランク上の観光コンシェルジュとして、観光客に対するおもてなしの方法を学んでもらう。				
具体的な指標：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数				
目標値：	令和 2 年度 0 人 ⇒ 令和 8 年度 50 人				
事業⑤：	日本遺産記念イベントの開催				
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度		
事業費：	令和２年度： 1,500千円	令和３年度： 千円	令和４年度： 千円		
事業概要：	日本遺産のストーリーを学び、日本遺産の認知度を向上させるとともに、商品開発や誘客など地域活性化に向けた方策を探る内容とした講演会やイベントを開催し、機運の醸成を図る。				
具体的な指標：	日本遺産の認知度				
目標値：	令和 2 年度 0 % ⇒ 令和 8 年度 70 %				

事業⑥：	日本遺産シンポジウムの開催				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度	
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 1,000千円		令和４年度： 千円	
事業概要：	「吹屋の赤」を活用している美術品の展示や芸術家を招いてシンポジウムを開催し、日本の赤の発祥の地であることを認識し、弁柄の文化について理解を深める。				
具体的な指標：	日本遺産の認知度				
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒	令和 8 年度	70 %
事業⑦：	日本遺産吹屋インバウンド視察ツアー				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度	
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 1,000千円		令和４年度： 千円	
事業概要：	外国人を対象に、吹屋の日本遺産のストーリーに関する観光施設等を巡る視察ツアーを実施する。外国人ならではの視点でアンケート調査を行うことで、改善点やさらなる興味に対する意見を得て、知名度と誘客効果を向上させていく。				
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数				
目標値：	令和 2 年度	0 件	⇒	令和 8 年度	3 件
事業⑧：	「高梁市日本遺産センター」（仮称）整備事業				
事業区分：	活用整備		事業期間：	令和 4 年度 ～ 令和 4 年度	
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 千円		令和４年度： 20,000千円	
事業概要：	日本遺産の情報発信の拠点として、吹屋地区内の旧吹屋小学校校舎（県指定重要文化財）等を活用して、インフォメーションコーナーを設置する。構成文化財を紹介するパネル展示やパンフレット配布など、日本遺産のストーリーの理解に有効なガイダンス機能を強化する。				
具体的な指標：	日本遺産センターへの入館者数				
目標値：	令和 2 年度	0 人	⇒	令和 8 年度	20,000 人
事業⑨：	ＡＲを活用した観光周遊アプリの導入				
事業区分：	情報コンテンツ作成		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度	
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 4,000千円		令和４年度： 千円	
事業概要：	日本遺産を構成する文化財の周遊を促進するため、多言語による解説や、案内看板と連動したＡＲ動画・３Ｄビュー機能のアプリを導入し、観光客の満足度を向上させる。				
具体的な指標：	アプリダウンロード数				
目標値：	令和 2 年度	0 回	⇒	令和 8 年度	50,000 回
事業⑩：	日本遺産ＰＲパンフレット・ポスター作成事業				
事業区分：	情報コンテンツ作成		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度	
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 2,000千円		令和４年度： 千円	
事業概要：	日本遺産をＰＲするための、日本語版・英語版等のパンフレットやポスターなどを作成する。				
具体的な指標：	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増冊数				
目標値：	令和 2 年度	0 部	⇒	令和 8 年度	100,000 部

事業⑪：	日本遺産ＰＲ動画作成事業				
事業区分：	情報コンテンツ作成		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度	
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 6,000千円		令和４年度： 千円	
事業概要：	国内外向けに高梁市の日本遺産に係る歴史文化や観光、産業をＰＲするプロモーション動画を制作する。１コンテンツを３０秒程度とし、制作した動画を高梁市の公式チャンネル等を活用し、世界に向けて発信する。				
具体的な指標：	ＹｏｕＴｕｂｅの再生回数				
目標値：	令和 2 年度 0 回 ⇒ 令和 8 年度 100,000 回				
事業⑫：	日本遺産ホームページの作成				
事業区分：	情報コンテンツ作成		事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度	
事業費：	令和２年度： 3,000千円	令和３年度： 千円		令和４年度： 千円	
事業概要：	ジャパンガイドをはじめとした旅行情報サイトに、吹屋の観光情報を掲載するとともに、インバウンド対応に向けての英語版ＨＰの作成を行う。				
具体的な指標：	ホームページ閲覧数				
目標値：	令和 2 年度 0 回 ⇒ 令和 8 年度 100,000 回				
事業⑬：	吹屋の銅山経営や現在の町並みが出来るまでのＶＲによる再現				
事業区分：	情報コンテンツ作成		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度	
事業費：	令和２年度： 千円	令和３年度： 15,000千円		令和４年度： 千円	
事業概要：	銅山での採掘やトロッコ運搬作業の風景、弁柄で栄えた町並みができるまでの景観をVRによって再現し、日本遺産ストーリーを体感してもらい、観光客への満足度を高める取り組みを行う。				
具体的な指標：	施設への入込み数				
目標値：	令和 元 年度 450,000 人 ⇒ 令和 8 年度 520,000 人				

（７）その他事業

事業①：	高梁市歴史いろは塾		
実施主体：	高梁市	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	様々な分野で活躍されている講師を迎え、高梁市の歴史や伝統文化を分かりやすく学び、郷土への愛着を深めていく講座を毎年実施する。		
事業②：	旧吹屋小学校校舎保存修理事業		
実施主体：	高梁市	事業期間：	平成　27　年度 ～ 令和　3　年度
事業概要：	旧吹屋小学校（県指定重要文化財）は、銅と弁柄の産地として栄えた吹屋の絶頂期に建設された木造校舎で、平成27年から保存修理を行っており、完成後には吹屋の観光拠点として活用を図る。		
事業③：	吉岡銅山遺跡調査事業		
実施主体：	高梁市	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	吹屋銅山の起源となった吉岡銅山遺跡の調査を行い、吹屋の歴史を語る新たな地域資源としての掘りおこしをする。		
事業④：	吹屋古民家再生事業		
実施主体：	高梁市、㈱吹屋	事業期間：	令和　3　年度 ～ 令和　4　年度
事業概要：	吹屋地域の空き家となっている古民家を宿泊施設に改修し、地域の活性化と観光客（インバウンドを含む）の誘客を推進する。		
事業⑤：	備中神楽・渡り拍子保存伝承活動推進事業		
実施主体：	備中神楽・渡り拍子保存伝承団体、高梁市	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	備中神楽（重要無形民俗文化財）や渡り拍子（高梁市指定重要無形民俗文化財）を後世に伝承するため、保存伝承団体や、後継者育成団体に対し、活動の支援を行う。		
事業⑥：	歴史的町並みを活かした映画やドラマの誘致		
実施主体：	たかはしフィルムコミッション	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	高梁市では文化財や歴史的町並みを活かし、多くの映画やドラマのロケ地として使われており、映画の誘致を進めることで高梁の認知度を高め、観光振興につなげていく。		
事業⑦：	日本遺産関連商品開発支援事業		
実施主体：	（仮称）高梁市日本遺産推進協議会	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	市内商工団体と連携し、お土産や新商品の研究・開発を行う日本遺産登録団体等へ支援を行う。		
事業⑧：	シャトルバスの運行		
実施主体：	備北バス（株）、高梁市	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	高梁市が所有するボンネットバスを観光シーズンに運行する。（吹屋地域周遊）		
事業⑨：	地域商業活性化支援事業		
実施主体：	高梁市	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	商業振興及び地域経済の活性化に役立てる事業に要する経費の一部を助成し、地域での創業の支援を行う。		
事業⑩：	星空観察ツアー（ナイトタイムエコノミー事業）		
実施主体：	（仮称）高梁市日本遺産推進協議会	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	吹屋の夜のアクティビティの充実を図るため、星空観察ツアーを実施する。		
事業⑪：	自転車を活用した観光事業		
実施主体：	成羽町観光協会吹屋支部	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	吹屋では自転車ヒルクライムレースを年1回開催しており、自転車を利用して観光地を巡るサイクリング散策を行い、観光振興につなげる。		

事業⑫：	グリーンスローモビリティ導入事業		
実施主体：	高梁市	事業期間：	令和　3　年度 ～ 令和　4　年度
事業概要：	日本遺産を構成する文化財の周遊の利便性向上を図るため、「グリーンスローモビリティ」を導入していく。航続距離や観光客の満足度を分析する実証実験を経て活用していく。		
事業⑬：	吹屋ベンガラ灯り		
実施主体：	中野吹屋青年団	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	吹屋の町並みを数百個のベンガラ焼の灯篭で幻想的に照らし、吹屋小唄踊りを披露する祭りを毎年実施する。		
事業⑭：	吹屋ベンガラート展		
実施主体：	吹屋ベンガラート展実行委員会	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	吹屋の町並みを弁柄をテーマにしたアート作品で彩り、弁柄を題材にしたアート作品が赤い町並みに映え、のんびり町歩きしながら楽しむイベント。		
事業⑮：	広兼邸花めぐり		
実施主体：	中野吹屋青年団、花めぐり実行委員会	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	銅山経営と弁柄の製造で財を成した広兼邸の邸内を花々で装飾するイベント「広兼邸花めぐり」を年１回開催する。		
事業⑯：	歴史街道ウルトラマラニック		
実施主体：	歴史街道ウルトラマラニック実行委員会	事業期間：	令和　2　年度 ～ 令和　8　年度
事業概要：	マラソンとピクニックを掛け合わせたもので、歴史を感じ、楽しみながら走るイベント。		